

春の天気 ～春を見つけよう～

3月になりました。ほかほか暖かい日とまだまだ寒い日を繰り返して、だんだんと暖くなる季節。そろそろ土筆もひょっこり顔を出して、春を感じることができる季節がやってきました。今回は、そんな春の天気についてご紹介したいと思います。（天気図は、気象庁提供のものをトリミング加工しています。）

春を告げる風、「春一番」

みなさんは、「春一番」とよばれる風をご存知でしょうか？立春（2/4頃）から春分（3/20頃）までの間に、初めて吹く暖かい南寄りの強い風が「春一番」です。暖かい春の空気を運んでくれますが、穏やかな優しい風ではありません。ときには災害を招くこともあるので、注意が必要です。風は、気圧が高いところから低いところに向かって吹きます。春は日本海上にある発達した低気圧に向かって南風が吹き込み、強い風が吹きやすい季節となっています。

また、春一番が吹いた後、ずっと暖かい南風が続く…というわけではありません。暖かい南風をよび込んだ日本海の低気圧が通り過ぎた後は、再び冬型の気圧配置となり、寒さが戻ってきます。

昨年2016年は、2月14日に中国地方や東海地方など各地で春一番が観測されていますが、大阪で前回春一番が観測されたのは、2013年3月18日です。春一番は「立春から春分までの間」と期間が決まっているので、毎年発生するとは限りません。

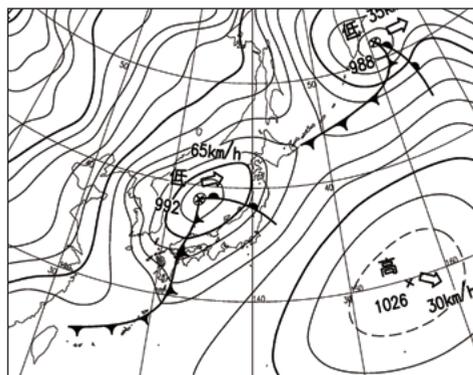


図1. 2016年2月14日3時の天気図
（日本海にある低気圧に向かって暖かい南風が吹き込む）

春の天気は変わりやすい！？

春はほかほか、ぼや～っと晴れているイメージがある…かもしれませんが、実は、春の天気は変わりやすく、晴れたり雨が降ったり短い周期で天気が変わります。

春には、移動性の高気圧と低気圧が西から東へ3～4日ごとに日本上空を交互に通過することが多くなります。基本的には、高気圧が来ると晴れ、低気圧が来ると雨が降ることが多くなります。それは、低気圧のところでは上昇気流により雲ができてやすく、高気圧のところでは下降気流により雲がなくなるためなのですが、そのため、晴天と雨天が短い周期で繰り返されます。ただ、高気圧の圏内すべ

てが晴れている、というわけではありません。高気圧の中心より西側や南側では、次の低気圧の雲がかかってきたりするので、雲が広がりやすくなっています。そのため、高気圧がどのようなコースをとるかによって、天気の変化は異なります。

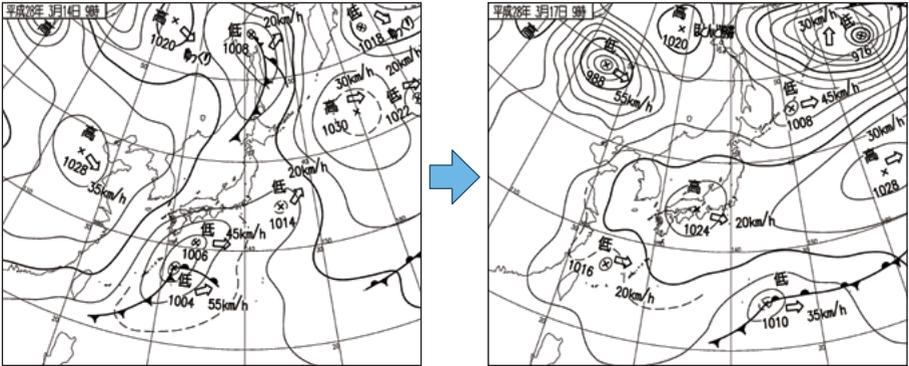


図2. 春の天気図 2016年3月14日9時

2016年3月17日9時

桜の開花日発表、決め手は「^{ひょうほんぼく}標本木」！

春と言えば…お花見！お花見と言えば…桜！毎年「桜が開花しました」とか「満開になりました」とか発表がありますが、みなさんの近くにある桜の咲き具合と違うことはありませんか？一体どうやって開花日や満開日を決めているのでしょうか？

実は、気象庁では各地で基準とする「標本木」を決めていて、毎年決まった桜の木を観測しています。そして、標本木の桜がどれだけ咲いたかによって、開花日や満開日を決めています。写真は、奈良地方気象台にある桜の標本木です。写真はまだ1月の状態ですが、3月後半には、膨らんだつぼみが見られるはず。ちなみに、大阪では大阪城公園の中に桜の標本木があるそうですが、自分だけの標本木を決めて観察したり、気温などとの関係を調べたりしてみても、ちょっとした季節の変化に出会えて楽しいかもしれません♪（奈良地方気象台は、2017年3月上旬頃に移転します。）



桜の標本木(奈良)

桜の開花日と満開日	
開花日	標本木で5～6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日
満開日	標本木で全体の約80%以上の花が咲いた状態となった最初の日

西岡 里織(科学館学芸員)